

第 32 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日時:平成 27 年 10 月 30 日(金)16 時 30 分～18 時

会場:東北大学災害科学国際研究所棟1階 多目的ホール

テーマ:「地球変動の理解」

1. 16:30-16:50(発表 20 分)

タイトル:「仙台平野南部の伏在活断層とその北部延長における活断層の連続性」

話題提供者:岡田真介(災害理学研究部門 地盤災害研究分野)

内陸活断層は、ひとたび地震を発生させると直下で生じるため、甚大な被害をもたらす可能性が高い。しかしながら、内陸活断層のなかには、地形学的に詳細が明らかになっていないものもあり、地震災害軽減のためには、まずその基礎的な情報として、活断層の位置・長さ・変位量などを明らかにする必要がある。本発表では、仙台平野南部に伏在する活断層について調査し、その地下構造および北部への連続性について明らかにしたので報告する。

2. 16:50-17:10(発表 20 分)

タイトル:「東北地方の火山活動」

話題提供者:三浦 哲(災害理学研究部門 火山ハザード研究分野)

近年、国内のいくつかの火山で噴火が発生したり、火山活動の活発化がみられている。東北地方においても、火山性地震の多発等により、蔵王山においては本年 4 月 13 日から 6 月 16 日まで、吾妻山においては昨年 12 月 12 日から現在に至るまで噴火警報(火口周辺)が発表されている。我々は、これら二つの火山周辺で観測網の強化を実施し、地下で起きている現象の把握に努めている。本発表では、観測データの解析に基づいて得られた最新の知見について報告する。

3. 17:10-17:30(発表 20 分)

タイトル:「全球海洋観測システムの現状と将来」

話題提供者:須賀利雄(災害理学研究部門 気象・海洋災害研究分野)

気候システムにおいて海洋が果たす役割の重要性が明確に認識されるようになった 1980 年代後半から、全球的・持続的な海洋観測体制の整備に関する議論が本格化した。その後の観測システム構築の歴史と現状、それによって明らかになってきた海洋の長期変動の実態を紹介する。さらに、物理的な側面および外洋域を主な対象としてきたこれまでの観測システムを、学際的かつ沿岸域を含む観測システムへと拡張する動きについて述べる。

4. 17:30-18:00 総合討論

総合司会:遠田晋次(災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野)

次回「第 33 回 IRIDeS 金曜フォーラム」は、平成 27 年 11 月 27 日(金) 16:30～18:30 東北大学災害科学国際研究所棟 1 階多目的ホールにて開催の予定です。